

## 泳法及び CMAS ビーフィンに関する規則 その2

CMAS 国際競技規則について、以下を第 26 回フィンスイミング日本選手権大会より、日本国内大会で適用することに決まりました。(太字下線部が追加されるルールとなります)

### 1. 泳法と15mルールについて

スタート及びターン後の潜泳について、CMAS(世界水中連盟)の国際競技規則を適用する。具体的には、スタート及びターン後の潜泳は15mまでとする。

～参考：Finswimming CMASRules（抜粋）～

#### ○サーフィス (SF)

- ・ 潜水は、スタートおよびターン後15m以内のみ可能である。泳者のスノーケルもしくは頭が15mラインを越えるまでに水面から出なければならない。(2.2.1.2.)
- ・ サーフィスは、すべての距離で、呼吸にはスノーケルを使用しなければならない。(2.2.1.4)

#### ○ビーフィン (BF)

- ・ 泳法は、スノーケルを装着して、胸から上においてはクロールとする。(2.2.4.1.)
- ・ ドルフィン泳は、スタートおよびターン後15m以内の無呼吸時のみ認められる。(2.2.4.2.)
- ・ 潜水は、スタートおよびターン後15m以内のみ可能である。泳者のスノーケルもしくは頭が15mラインを越えるまでに水面から出なければならない。(2.2.4.3.)
- ・ スタート時、フィンスタートブロックの前方で、並行にそろえて構えなければならない。(2.2.4.4.)

### ■ 大会での適用について

- ・ サーフィス種目は、すべての距離でスノーケルを装着しないと失格となる。
- ・ サーフィスリレー種目においてビーフィン (FRP ビーフィン等) で泳ぐ場合も、サーフィスリレーではスノーケルを装着すること。
- ・ ビーフィン種目でのスノーケル装着は、CMAS ビーフィン種目のみに適用する。  
CMAS ビーフィン種目 (50m、100m、200m) では、スノーケルを装着しないと失格となる。
- ・ その他のビーフィン種目においては、スノーケルを装着していなくても失格にはならない。

## 2. CMAS ビーフィン規則について

2007年から、フィンスイミング世界選手権大会をはじめ、CMAS主催の国際大会にてビーフィン種目が正式に行われ、国際競技規則上、使用可能なビーフィンの基準が定められている。今大会実施するCMASビーフィン種目は、当該競技規則を適用する。使用が認められたサイズのビーフィンを用意の上、出場のこと。

なお、その他のビーフィン種目（25m、50m、100m、400m、1500m、4×50mリレー）については、上記の規制はない。（FRPビーフィン、ゴムビーフィン等、いずれの素材／サイズのビーフィンも使用可能）

～参考：Finswimming CMAS Rules（抜粋）～

### ○ ビーフィン競技で認められるフィンの基準

- ・ 市場で容易に入手できること。（2.3.2.2.a）
- ・ 最大寸法（2.3.2.2.b）

#### a. classical model（図①）

長さ 670mm、巾 225mm

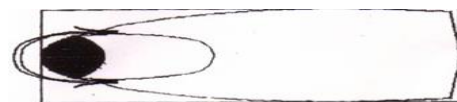
〔図①〕



#### b. diving model（図②）

長さ 675mm、巾 230mm

〔図②〕



- ・ 材質は以下に限定する（2.3.2.2.c）

－P.P.（Polypropylene、ポリプロピレン）

－EVA（Ethylene-viyl acetate、エチレン酢酸ビニール）

## ■ 大会での適用について

- ・ CMAS ビーフィン種目に使用できるビーフィンについては、以上の規則を適用する。サイズと材質がルールに則ったものであれば、使用できる。
- ・ ただし、国際大会に参加する場合は、CMAS 公認ビーフィンの使用が必要である。

以 上